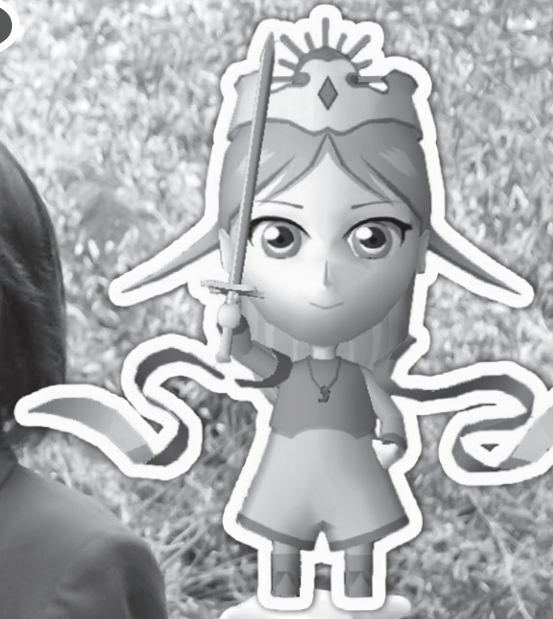


奥日野繁栄の秘密は、 「たたら」にあり!?



みり

サリ

みりサリ
が行く!
日野町
新スポーツめぐり



奥日野たたらりの里プロジェクト

たたら製鉄の歴史を
追体験せよ!

かつて、日野町を含む奥日野地域は「たたら製鉄」で栄えた鉄の一大産地でした。今は、木々に囲まれた遺跡が当時の面影をわずかに残すばかり。そんな中、町内に残る大規模なたたら場「都合山たたら遺跡」で、当時の様子が「よみがえる」という情報を聞きつけた双子の「みりサリ」コンビ。早速現地で緊急取材!そこにあつたものとは…。

そもそも「たたら」って？
たたらと地域のかかりを
知っておこう

奥日野の歴史

日野町を含む奥日野地域は、古来たら製鉄が盛んで、古事記の「スサノオとヤマタノオロチ伝説」をはじめ、「たたら製鉄」にまつわる伝承や地名など、その名残がそこかしこに残されています。

たたら製鉄とは、簡単に言えば、山から採取した砂鉄を、木炭と共に炉の中で長時間熱して鉄を作り出す、日本伝統の製鉄法のことです。奥日野地域は砂鉄を多く含む



大鉄山師・近藤家住宅。往時の繁栄をしのばせる



花崗岩質の山が多いため、江戸時代から大正時代にかけて、多くの「たたら場」が地域の鉄山師によって経営されていました。

日野町で有名な鉄山師といえば、江戸中期から奥日野で数多くのたたらを経営していた近藤家とその筆頭でしょう。大阪に鉄の直営店を開いたり、製鉄技術の向上のため、鉄職人の異動交流や「村下会議」を行うなど、合理的経営に徹して生産量を伸ばし、日本の近代化を支えました。

また、近藤家は、大正時代にはまだ珍しかったピアノや理科標本を小学校に寄贈したほか、1940（昭和15）年には7代当主・寿一郎が根雨公会堂を私費で建造し当時の根雨町に寄贈するなど、地域の文化・教育の発展に大きく寄与した篤志家としての一面もありました。根雨公会堂は現在、日野町歴史民俗資料館（国登録有形文化財）として、根雨のまぢを見下ろす高台で、在りし日の姿をとどめています。

どんなところで鉄を作ってたの？

操業当時の記録が残る「都合山たたら」

そんな近藤家が経営していたたたら場のうちのひとつが、中営にある「都合山たたら」です。こは、1889（明治22）年から1899（明治32）年にかけて操業されていた大規模なたたら場。1898（明治31）年、東京帝国大学の俵国一博士によって詳細な調査が行われ、製鉄炉のある高殿をはじめ、大鍛冶場などの図面や操業時の記録が残されていること

で有名です。

現在、建屋は失われているものの、製鉄施設の跡がほぼ残されており、その保存状態の良さでは日本屈指のたたら遺跡です。2008（平成20）年には発掘調査が行われ、俵博士の記録が検証されているほか、記録にはない製鉄炉の地下構造なども確認されたことから、学術的にも非常に貴重な遺跡といえます。

私は、たたら製鉄の神「^{かなやごしん}金屋子神」。ここからは私が案内しますね♪都合山たたらへは、かつて鉄を運んだ「たたら街道」を歩いていくのよ。

すごく楽しみ！
萌え美ちゃんといざ、都合山たたらへ！

きゃー、かわいい～！
金屋子神って言いにくいから「萌え美ちゃん」って呼ば♪



悠久の時を感じさせる街道の先にそのたたら場は存在する